

## 指令 令 防災気象情報を入手しよう！

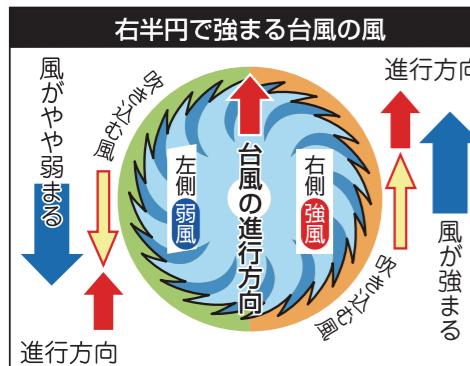
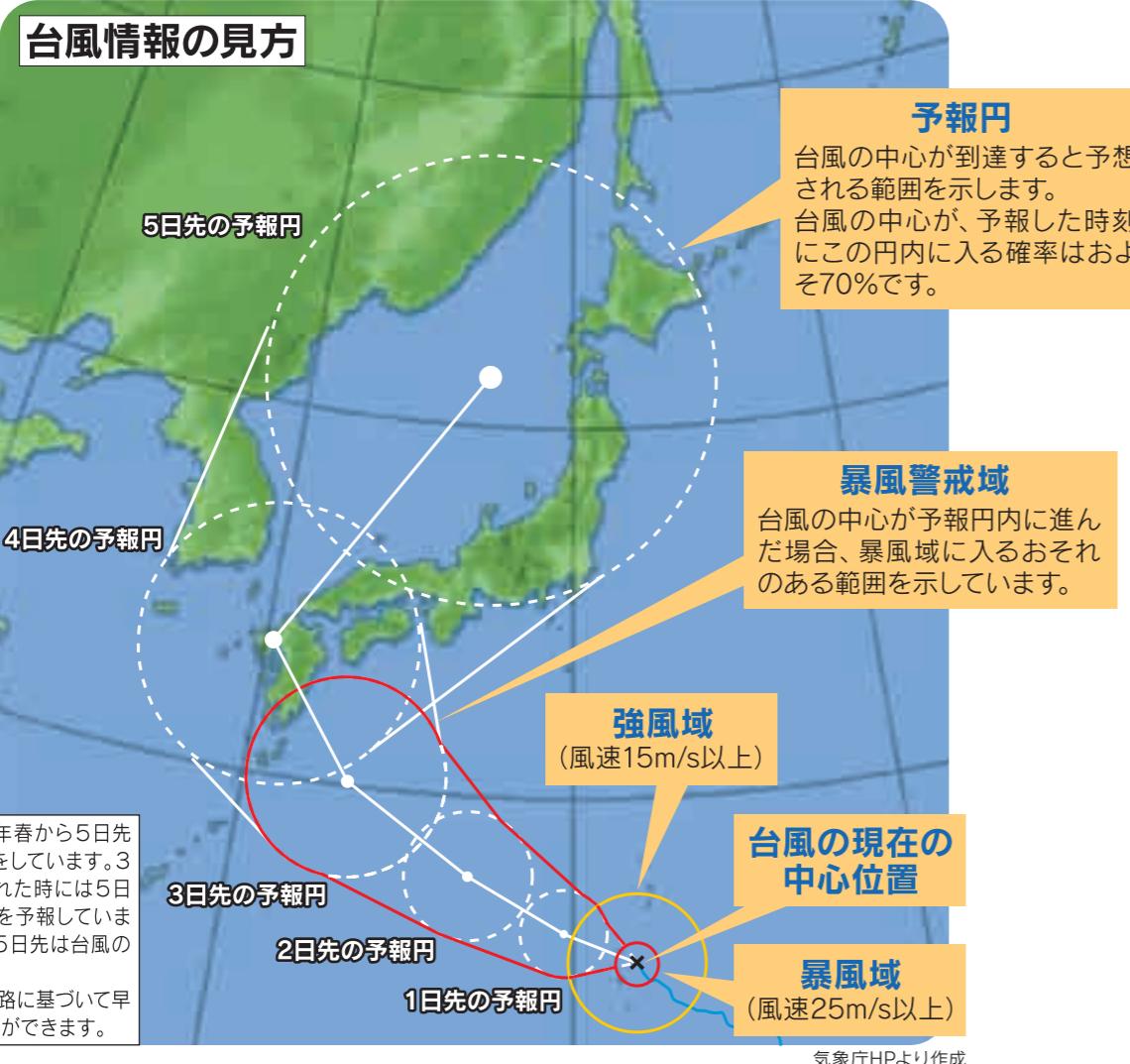
台風の接近時や雨が降り続いたりした時などは、テレビやラジオで気象情報を収集し、十分注意しましょう。

### 台風

熱帯や亜熱帯地方で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼び、このうち北西太平洋で発達して低気圧域内の最大風速がおよそ17m/s以上になったものを「台風」と呼びます。

台風の進路にあたる日本では、台風によって暴風、高潮、高波、大雨などによる被害を毎年受けています。

台風進路情報を確認しよう



台風の予想進路が発表されたら、自分の住んでいる地域のどちら側を通るか確認しましょう。進行方向に向かって右側の半円では、台風自身の風と台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹き、風が強くなるため、特に注意が必要です。

台風や大雨は人の力で止めることはできませんが、予想ができるから、被害にあわないためにも、天気予報やいろんな情報に注意して早めの対策をしましょう。

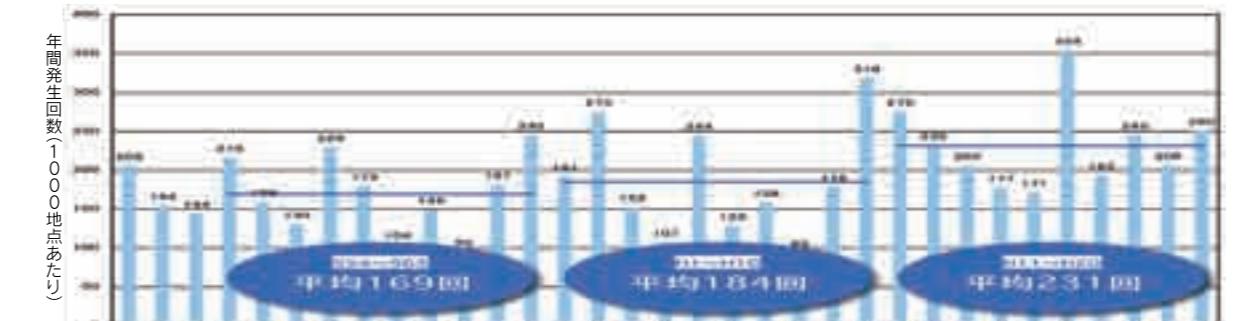
### 集中豪雨

集中豪雨とは、狭い範囲に比較的短時間に大雨が降る現象です。豪雨災害は梅雨の終わり頃や台風シーズンに発生しやすく、近年の発生回数は全国的に増加しています。河川の氾濫やがけ崩れなど大きな被害が出ることがあるので、十分な注意が必要です。

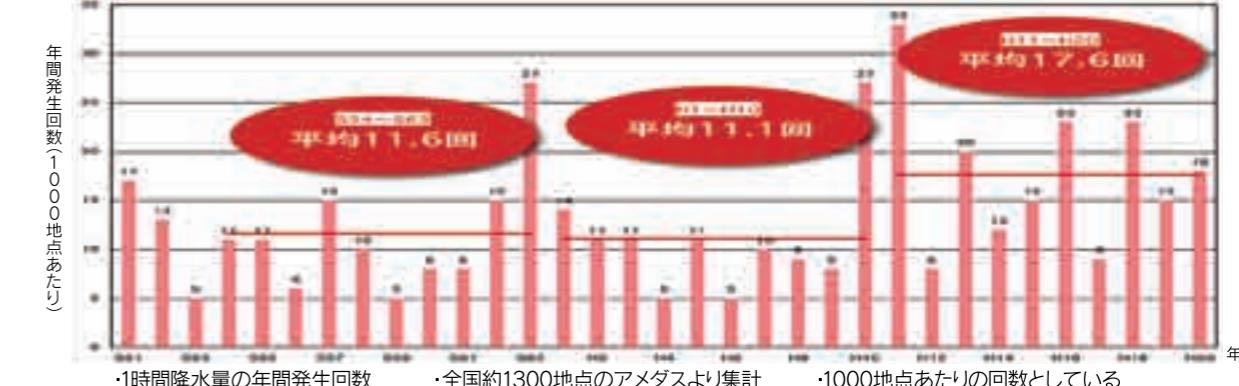
台風やゲリラ豪雨による集中豪雨の発生回数が、近年増加しています。

アメダス地点で1時間降水量が50mm、80mm以上となった年間の回数 (1000地点あたりの回数に換算)

1時間降水量 50mm 以上の年間発生回数 (1000 地点あたり)



1時間降水量 80mm 以上の年間発生回数 (1000 地点あたり)

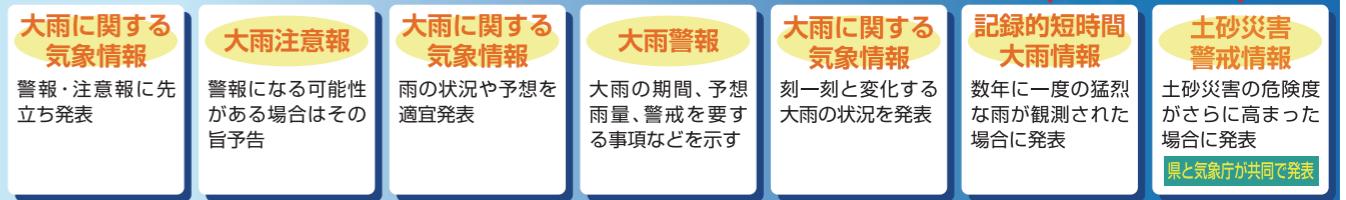


気象庁「気象変動監視レポート2008」から作成

気象庁は、低気圧や台風の接近などによって、大雨や強風により、災害が発生するおそれがある場合、警報や注意報などの防災気象情報を発表します。

#### 大雨の場合に気象庁が発表する防災気象情報

約1日程度前  
大雨の可能性が  
高くなる  
→ 半日～数時間前  
大雨が始まる  
強さが増す  
→ 数時間～  
1、2時間前  
大雨が一層  
激しくなる  
→ 記録的な大雨  
出現  
→ 被害の拡大が  
懸念される



#### 1時間の雨の量と 降り方

|         |   |         |  |
|---------|---|---------|--|
| 10~20mm | ザーザーと降り、雨の音で話し声がよく聞き取れない。                           | 50~80mm | 滝のように降り、都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。土石流が起こりやすくなる。    |
| 20~30mm | どしゃ降りで側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。                  |         |  |
| 30~50mm | パケツをひっくり返したように降り、山崩れ、がけ崩れが起きやすくなる。都市では下水管から雨水があふれる。 | 80mm以上  | 息苦しくなるような圧迫感がある。雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要となる。 |